



鈴鹿の

レガシー遺産

～鈴鹿の未来に向けて～

1942(昭和17)年12月1日に誕生し、今年で市制施行80周年を迎える鈴鹿市。80周年にちなみ、このコーナーでは本市の発展を振り返ります。

市制施行80周年記念 みんなで創ろう!レガシー事業(大木中学校)

みんなで創ろう!レガシー事業は、市制施行80周年記念事業として、市内の小・中学校が、学校単位で自由な発想により企画した取り組みを行う事業です。

今回は、大木中学校のレガシー事業の取り組みを紹介します。

事業名:SDGs「つくる責任 つかう責任」について 取り組もう!

給食の食品ロス削減を啓発

生徒会が、給食の食品ロス発生量を調査しました。市内の中学校平均より多かったことから、全生徒に向けて、削減の啓発を行いました。



給食の食品ロス削減に向けて

ポスターによる啓発、給食の準備時間の短縮による食事時間の確保、給食終了後の食品ロス量の計量などを行いました。



「食品ロス削減講演会」の開催

鈴鹿大学短期大学部から講師を招き、食品ロス削減による家計負担の軽減や、二酸化炭素排出量の削減につながることなどを学びました。また、学校給食センターでの食品ロス削減の取り組みの紹介を受けました。



80周年のあゆみを皆さんにお伝えする「鈴鹿のレガシー」は、今回を持って終了します。ご愛読いただき、誠にありがとうございました。



モータースポーツお宝探検隊 vol.19

羽星勝さん(72歳 三日市南)は、本田技研工業(株)在職中、カナダを拠点に製品の品質管理を担当し、帰国後、鈴鹿製作所で勤務されたホンダマンです。羽星さんが出張でアメリカ・ルイジアナ州シュリーブポートの2輪販売店を訪ねたとき、現地スタッフが「せっかく来てくれたのだから」と引き合わせてくれたのが、なんと当時の2輪ロードレース世界GPで活躍していたフレディ・スペンサー選手(ルイジアナ州出身)でした。そのとき撮ったツーショット写真が羽星さんにとってのお宝の一枚。

写ったオートバイの機種から、1983・1985年に世界チャンピオンを獲得したころのスペンサー選手であることが推察されますが、スペンサー選手は、まるで少年のようなあどけない表情をしています。

羽星さんは、握手した手の柔らかさに驚かされたこと、世界最高峰で戦うアスリートとしての不思議なオーラがあったことなど、写真を見返すたびに、そのときの感動が思い出されるそうです。



▲羽星さん(左)と写真に収まる当時まだ20代前半のスペンサー選手(右)

■中野能成(鈴鹿モータースポーツ友の会 事務局)

キーボード

有権者になって初めて迎えた選挙は、大学生となり一人暮らしをしていたまちの市長選挙でした。当時の私は、近くに投票所があったにも関わらず、「面倒くさいから行かなくていいや」と友達と遊ぶことを選び、投票に行きませんでした。

今となっては、何も考えていなかった自分を恥ずかしく思うと同時に、暮らすまちのことを真剣に考えて投票に行けば良かったと後悔しています。

4月に行われる統一地方選挙は、私たちが住むまちの代表者を選ぶ大切な選挙です。選挙結果が直接生活に影響することから、自分のことはもちろん、子どもがいる私は、現在や将来のことも考えて投票したいと思っています。

選挙は、平等に与えられた権利で、政治に意見を反映させる絶好の機会です。明るい未来につながるよう、よく考えて投票したいものですね。(由)